

教育は「人づくり」であり、未来への投資です。子どもを育てる学校は、家族であり、船です。家族が父親だけでは成り立たないように、船長だけでは船は航海できないように、学校も、教職員皆さんの力がないと、十分な教育効果を上げることはできません。だから、みなさんの力を私にください。（貸すのではなく、ください。）

平成26年度の大室小学校を出発するに当たって、この時期だからこそ確認しておきたいこと、お願いしておきたいこと等を以下に示しました。

※ 最初に、プロとしての意識

※ 先生方は教育者です。子どもの未来を創るという責任とやりがいのある仕事に携わっていることを、もう一度自覚してください。高学歴の保護者が増えています。教免許を所有している保護者もいます。

しかし、私たちは教育のプロです。教育を職業として給料をいただいている身です。教員免許状をもっているだけの人たちとはその点で違うということを、授業をはじめとして、児童指導等の様々な場面で示してください。

◆全職員で同一歩調、ベクトル合わせ

学校として決めたことは、全職員で、例外なく、同一歩調で取り組んでください。誰かが、どこかで違う取組をしたとき、そこから綻びが生じます。ベクトル合わせをが大事です。

◆私の求める教師像

1 子どもが好きな教師

好きだから教師になったはずです。原点です。

2 社会人としての教師

子どもにとって、親の次に身近な大人が先生です。子どもの手本となるような「大人」であってください。提出物の締め切りは、基本、厳守は当たり前です。また、自分の仕事よりも全体の仕事を優先させることも、当たり前です。

3 温かな心をもつ教師

いつも温かいまなざしで子どもたちを見守ってあげてください。いつも子どもたちに寄り添って考えられる教師であってください。小学生という発達段階、それぞれの子どもたちの学年段階にふさわしい言葉遣いで指導してください。

4 進んで学ぶ教師

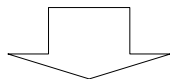
先生方は、子どもに「学べ」と言います。ならば、自身も学ぶこと。「教えること」を職業としている身なら、子ども以上に学び、本を読むこと。教師は子どもにとって「学びの手本」なくてはなりません。

5 判断する教師

先生方はそれぞれ御自身で判断して、主務者と連絡を取りながら行動してください。「どうしたらいいですか。」と聞きに来るのは、判断のない「丸投げ」です。最終的な決断は校長がします。「判断」と「決断」の違いを意識して取り組んでください。責任は校長がとります。

6 プロ意識をもつ教師

できないことを子どものせいにはしないこと。保護者のせいにはしないこと。子どもたちのできない理由を自分の指導以外に求めた瞬間に、指導はそこで終わりです。だとしたら、私たちは「教育のプロ」失格です。



◎ 学級経営ではこのような努力を

- 子どもとたくさんしゃべりましょう。
- 子ども同士が語り合える雰囲気と場を創り出しましょう。
- 子どもを心で耕すばを大切にしましょう。
- 子どもたちの意欲を引き出す場を設定しましょう。
…そして、学級正義を確立してください！！

◎ 教室、職員室での2禁

- × 子どもや保護者の悪口を言わない。
これは、いつでもどこでも禁止。教師としての基本姿勢です。
- × できないことを子どものせいにはしない。
「何回言っても分からない。」というような言葉を耳にすることがありますが、言うだけなら、素人にだってできます。自身の指導力が問われることを自覚してください。